

製品名: CAF-1 p60 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07839**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	61kDa

抗原情報

遺伝子名	CHAF1B CHAF1B; CAF1A; CAF1P60; MPHOSPH7; MPP7; Chromatin assembly factor 1 subunit B; CAF-1 subunit B; Chromatin assembly factor I p60 subunit; CAF-I 60 kDa subunit; CAF-I p60; M-phase phosphoprotein 7
別名	
遺伝子 ID	8208.0
SwissProt ID	Q13112
免疫原	抗血清はヒト CAF1B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

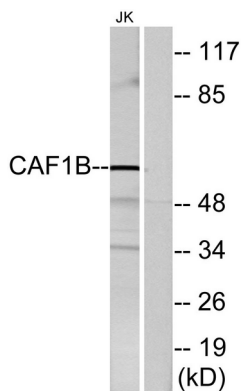
背景

クロマチンアセンブリ因子 I (CAF-I) は、新たに複製された DNA 上へのヒストンオクタマーの組み立てに必須です。CAF-I は、p50、p60、p150 の 3 つのタンパク質サブユニットで構成されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は p60 サブユニットに相当し、複製後のクロマチンアセンブリに必須です。コードされるタンパク質は、細胞周期依存的に異なるリン酸化を受けます。また、有糸分裂中を除き、通常は核内に存在しますが、有糸分裂時には細胞質に放出されます。このタンパク質は WD リピート HIR1 ファミリーのメンバーであり、DNA 修復にも関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、発生段階：活性複合体は G1 期、S 期、G2 期に存在します。機能：DNA 複製および DNA 修復におけるクロマチンアセンブリを媒介すると考えられている複合体。in vitro において、複製中の DNA 上にヒストンオクタマーを組み立てます。CAF-1 はヌクレオソーム組み立てプロセスの最初のステップを実行し、新しく合成されたヒストン H3 と H4 を複製 DNA に運びます。ヒストン H2A/H2B は、DNA 複製後にこのクロマチン前駆体に結合してヒストン八量体を完成させます。CCR4-NOT 複合体は、一般的な転写調節複合体として機能します。PTM:細胞周期中に異なるリン酸化を受けます。有糸分裂中、不活性 CAF-1 の p60 サブユニットは過剰リン酸化され、細胞質に移行します。G1 期から S 期、G2 期にかけて徐々に脱リン酸化されます。リン酸化 p60 は、G1 期、S 期、または G2 期に紫外線照射を受けた後、DNA 修復を受けているクロマチンにリクルートされます。類似性:WD リピート HIR1 ファミリーに属します。類似性:7 つの WD リピートを含みます。細胞内位置:DNA 複製フォーカス。M 期では細胞質内に存在。サブユニット: RBBP4、CHAF1B、CHAF1A を含む CAF-1 複合体のサブユニット。CHAF1A は CHAF1B に直接結合する。G1 期では、ごく少量の RBBP4 が CHAF1A および CHAF1B と複合体を形成する。G2 期および S 期では、単量体の CHAF1B も検出される。CCR4-NOT コア複合体のサブユニットで、CHAF1A、CHAF1B、CNOT1、CNOT2、CNOT3、CNOT4、CNOT6、CNOT8 を含む。

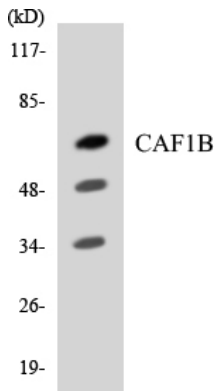
研究分野

NF_カップB

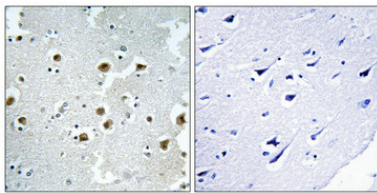
画像データ



CAF1B 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CAF1B 抗体を使用した RAW264.7 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。